

目 次

はしがき	1
目次	5

第1部：日本語学班の目的と研究進捗状況¹

コーパスを用いた日本語研究の精密化と新しい研究領域・手法の開発	9
平成18年度研究進捗状況報告	17

第2部：研究会等の発表資料²

コーパスと日本語研究——一般論と事例研究——（田野村忠温）	27
コピュラの分布の分析と調査 ——コーパスの種類と規模の妥当性——（田野村忠温）	34
多変量解析の手法を用いた、程度副詞－述語の共起関係の分析（服部匡）	43
「漢語動名詞＋‘先’」について ——新聞コーパスの実例分析試論——（服部匡）	54
複合格助詞の格体系における位置づけ ——複合格助詞「によって」の用法と制限——（杉本武）	63
動作主を示す複合格助詞「によって」について（杉本武）	71
新しい「コーパス語彙研究」の可能性（石井正彦）	77
コーパス言語学における探索的データ解析の有用性（石井正彦）	83

第3部：論文³

コピュラ再考（田野村忠温）	97
因子分析を用いた程度副詞と述語等の共起関係分析の試み ——新聞コーパスのデータから——（服部匡）	119

「～先」の形の複合語について ——複数漢語要素を有するものについてのメモ——（服部匡）	138
コト節をとる「によって」句について（杉本武）	141
日本語研究における探索的データ解析の有用性（石井正彦）	157

1) 第1部の内容は特定領域研究「日本語コーパス」発足時の2006年9月に開催された全体会議（国立国語研究所）およびその約半年後の2007年3月に開催された公開ワークショップ（東京：時事通信ホール）における発表原稿である。聴衆の範囲が異なる関係で、後者では前者の内容のかかなりの部分を繰り返して述べた。

2) 第2部に収めた発表資料は2006年9月および2007年1月の日本語学班研究会（大阪：千里朝日阪急ビル）での配布資料に誤記の訂正などを施したものである。なお、2006年9月の研究会では班外の丸山岳彦氏に『日本語話し言葉コーパス』に基づく言い直し表現の機能的分析」という題名で、2007年1月の研究会では宮島達夫先生に「国名の並列」という題名でそれぞれご発表いただいた。

3) 第3部の論文の多くは今年度中に刊行された出版物に掲載されたものの再録である。もとの出版物名は「研究発表」の項（2頁）に記載している。